

人文・社会系

アジア諸社会における ケアとジェンダーの比較研究



京都大学 大学院文学研究科 教授
落合 恵美子

【研究の背景】

子どもや老親など家族のケアと自分の人生の追求との両立は、日本の女性にとって大きな課題です。育児不安やそれによる児童虐待、介護過労死なども問題になっています。他の社会ではどのようにこの問題を解決しているのだろうかと考えました。

【研究の成果】

科学研究費補助金基盤研究A(1)「アジア諸社会におけるジェンダーの比較研究」(平成13-15年度、研究代表者宮坂靖子)の助成をいただくことができ、中国、台湾、韓国、タイ、シンガポールの研究者たちと協力しつつ、現地調査を実施しました。日本と比較可能な近代的なライフスタイルをもつ都市中産層を対象に半構造化インタビュー調査を行い、あわせて行政機関や施設での聞き取り調査、いくつかの社会では質問紙調査も実施しました。

その成果をまとめたのが、表1と表2です。子どものケアについては、女性労働力活用政策をとる中国とシンガポールでは施設保育が充実しています。シンガポール、台湾、タイでは家事労働者が大きな役割を果たしています。その多くはフィリピン、インドネシア、ベトナム、ミャンマーなどからやってきた外国人メイドでした。高齢者ケアでも外国人メイドはすでに欠かせぬ存在でした。他方、施設介護は日本以外の諸社会では整備途上にはありましたが、現在の高齢者の子どもたちはまだ兄弟姉妹数が多い世代なので、子どもたちの協力とメイドの力で、なんとか家族介護を続け

ていました。

全体として目につくのが、日本の育児の母親への集中ぶりです。韓国と日本では女性のM字型就労が多いですが、育児支援の質の低さが日本の育児を困難にし、女性の就労継続を不可能にしているのは明らかです。介護でも長男夫婦に負担が集中しています。

【今後の展望】

この研究成果は『アジアの家族とジェンダー』(勁草書房)、『21世紀アジア家族』(明石書店)および多くの学术论文(国際学術誌英語論文を含む)として発表したほか、英語でも*Asia's New Mothers* (Global Oriental)として英国より刊行し、アジア社会間の比較研究の先駆的業績として国際的にも高い評価を得ています。中国語、タイ語でも近刊予定です。

またこの成果を土台に、ケア労働者の国際移動を含めたケアレジームの国際比較研究を構想し、科学研究費補助金基盤研究A(1)「現代アジアの家族変容と福祉レジームに関する国際共同研究」(研究代表者落合恵美子)を現在進めています。

【関連する科研費】

平成18-20年度 基盤研究(B)「アジア諸社会における主婦化の比較研究：近代化とグローバル化によるジェンダーの変容」

平成22-25年度 基盤研究(A)「現代アジアの家族変容と福祉レジームに関する国際共同研究」

	母親	父親	親族	コミュニ ティ	家事労働 者	施設(3歳児 未満)
中国	A+	A	A	B	C(大都市 はD)	A
タイ	A	A	B	B	B	D
シンガ ポール	A+	B	A	C	A	A
台湾	A	B	A	C	B	C
韓国	A+	C	B	B	C	C
日本	A+	C(大動 きはD)	C(大動 きはD)	B	D	C(大動 きはD)

▲表1 子どものケアをめぐる社会的ネットワーク

	子ども	子の配 偶者	親族	コミュニ ティ	ケア労働者	施設
中国	A 均等	B	B	A	B	C
タイ	A 均等	B	B	B	C	D
シンガ ポール	A 均等	B	B	C	A	C
台湾	A 均等	B	B	C	A	C
韓国	A 長男	A	B	B	B	C
日本	A 長男	A	C	C	C(介護保険 により変化)	B

▲表2 高齢者のケアをめぐる社会的ネットワーク